

対馬市観光振興推進計画策定業務骨子

留意事項

本骨子は、本計画の構成に関する基本的な考え方及び本市観光振興の方向性を示すものであり、実際の策定にあたっては、調査・分析の結果や受託者の専門的な知見に基づく提案、市民ワークショップ等の意見を踏まえ、柔軟に変更・拡充することを妨げるものではない。

第1章 計画策定の背景と目的

1 計画策定の背景

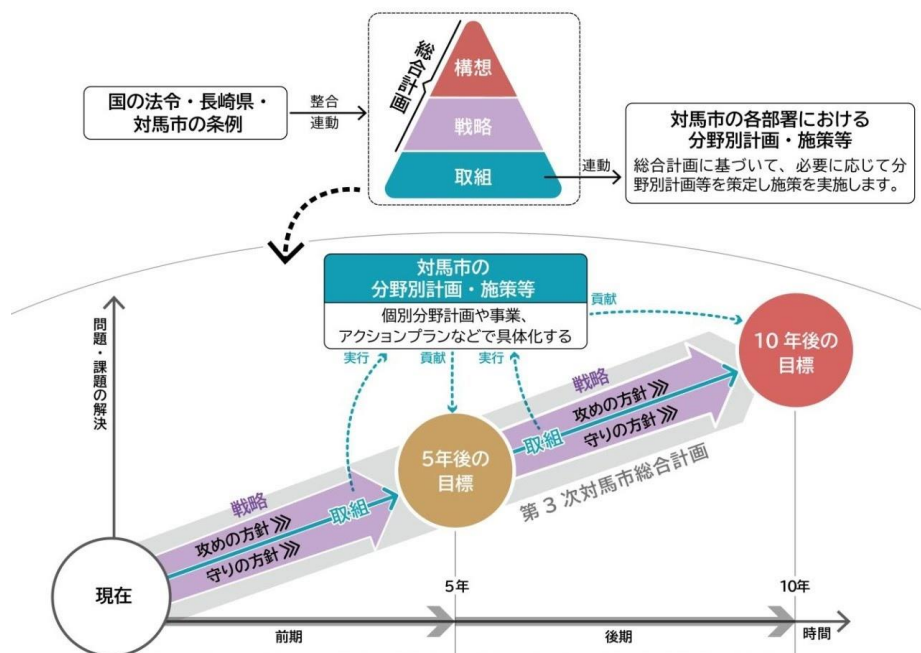
対馬市の観光は、インバウンド需要の劇的な変動や新型コロナウイルス感染症の影響を経て、大きな転換期を迎えている。現行計画（令和4年度～8年度）においては「量から質へ」「団体から個人（FIT）へ」の転換を掲げ、独自のポジショニングに基づくファン層の構築を推進してきた。現在、本市では生産年齢人口の減少に伴う担い手不足が深刻化し、有人国境離島としての地域維持が重要な課題となっている。こうした中、観光を地域経済の「稼ぐ力」として再定義し、持続可能な地域社会の構築に資する新たな戦略の策定が求められている。

2 計画策定の目的

本計画は、本市の観光資源及び観光を取り巻く環境の変化を多角的に分析し、市民・事業者・来訪者の満足を追求する「三方よし」の理念に基づき、持続可能な観光地域づくりのための具体的施策を体系化することを目的とする。

3 計画の位置づけ

本計画は「第3次対馬市総合計画」の将来像を実現するための部門別計画として位置づける。また、国の「観光立国推進基本計画」及び「長崎県観光振興基本計画（2026-2030）」との整合を図るものとする。なお、本市は国境離島という地理的特性や観光動向等において長崎県内の他地域と異なる状況にあることから、これらの計画との整合を図りつつも、本市の実情に即した観点から必要な施策を展開するものとする。



▲「第3次対馬市総合計画の体系図」（出典：第3次対馬市総合計画）

4 計画期間

令和9年度から令和13年度までの5年間とする。

第2章 観光を取り巻く環境（外部環境分析）

1 世界の観光動向と持続可能性

「サステナブル・ツーリズム」や、旅行者が地域社会に貢献する「レスポンシブル・ツーリズム」の普及状況を整理し、本市への示唆を抽出する。

2 日本の観光政策と旅行形態の変容

第4次「観光立国推進基本計画」に基づく消費額拡大、地方誘客促進の動向、及び旅行手配のFIT化やデジタルの活用状況を整理する。

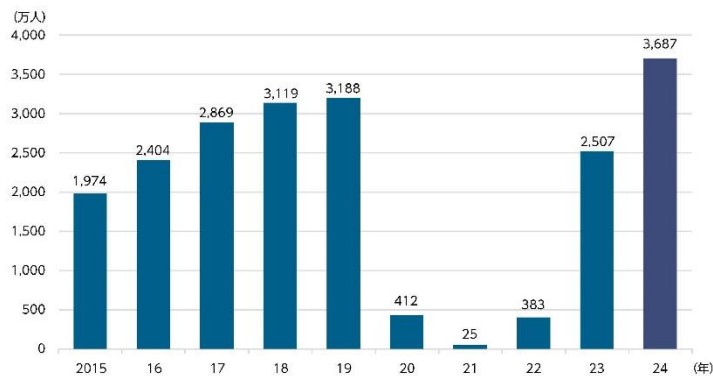
3 長崎県の観光戦略

「観光消費額の拡大」を最上位目標に掲げる県計画の重点戦略、及び福岡を起点とした広域周遊の促進、市場の多角化戦略を整理する。

4 大規模イベント等による波及効果の検討

世界遺産登録10周年（2028年）や大阪IR開業（2030年秋）等の機会を捉え、本市への誘客に資する可能性を分析する。

訪日外国人旅行者数の推移



資料：観光庁「令和7年観光白書」

日本人国内宿泊旅行延べ人数、国内日帰り旅行延べ人数の推移

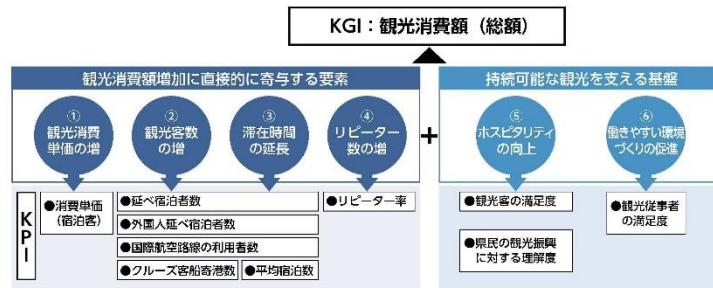


国内・訪日旅行における観光消費額



資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

▲「訪日外国人旅行者の動向（出典：長崎県観光振興基本計画）」



KGI

目標項目	参考(R1年(度))	基準年	基準値	目標年	目標値
観光消費額（総額）	3,678億円	R6年	4,587億円	R12年	5,225億円

KPI

目標項目	参考(R1年(度))	基準年	基準値	目標年	目標値
観光消費単価（宿泊客）	32,448円	R6年	42,884円	R12年	44,100円
延べ宿泊者数	821万人泊	R6年	748万人泊	R12年	810万人泊
外国人延べ宿泊者数	79万人泊	R6年	73万人泊	R12年	135万人泊
国際航空路線の利用者数	51千人	R6年度	41千人	R12年度	150千人
国内外のクルーズ客船寄港数	272隻	R6年	247隻	R12年	383隻
平均宿泊数	1.26泊	R6年	1.24泊	R12年	1.27泊
観光客（宿泊）のリピーター率 （来訪回数4回以上の割合）	16.3%	R6年度	23.1%	R12年度	28.0%
観光客の満足度	87.3%	R6年度	88.9%	R12年度	91.0%
県民の観光振興に対する理解度	-	R7年	60.2%	R12年	67.0%
観光従事者の満足度	-	R7年	66.8%	R12年	73.0%

▲「観光消費額増加に向けた6つの要素とKPI」（出典：長崎県観光基本計画）

第3章 現行計画の総括と対馬観光の現状分析

1 現行計画（令和4年度～8年度）の概要

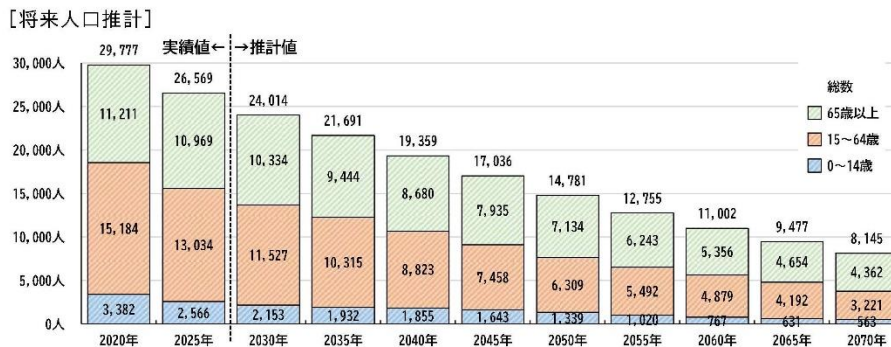
「日本の始まりに会う、源（みなもと）の島。」をコンセプトとした現行戦略の枠組みを整理する。

2 現行計画の達成状況の検証・評価

アクションプランの進捗、観光消費単価、満足度等のKPIの達成度を検証する。特に、現行計画で掲げた「強みの目的化」や「ターゲットの明確化」等の課題に対する改善状況を評価する。

3 対馬観光の内部環境と地域課題の整理

将来推計人口（2035年：21,691人）に基づく産業の担い手不足や地域構造の転換、入込客・観光消費の推移、受入基盤（交通・宿泊等）の現状を分析する。



データ：将来人口推計のためのワークシート（令和6年6月版）住民基本台帳人口を基準人口とした場合

▲「将来人口推計グラフ（2035年の推計）」（出典：第3次対馬市総合計画）

第4章 各種調査に基づく観光ニーズと意向の把握

1 観光客マーケティング調査分析

宿泊・日帰り客の属性、滞在時間、消費行動等の傾向を把握し、来訪者の期待値を可視化する。

2 市民・観光関係団体の意識調査（ワークショップ実施結果等）

ワークショップ等の手法を用い、観光振興に対する市民の理解度や事業者ニーズを把握する。「シビックプライド」を礎とした市民参加型の観光地づくりのあり方を検討する。

3 調査結果の活用

前各号の調査結果については、第6章における課題整理及び第8章における施策検討に活用するものとする。

第5章 観光エリア特性の整理

1 各エリアの特性と役割

本市は南北に長く、地域ごとに観光資源、交通条件、観光動向が異なる特徴を有している。このため、各エリアの特性について整理するとともに、観光振興における役割について検討するものとする。なお、エリア区分及び各エリアの役割については、本市の特性及び分析結果を踏まえ、受託者の提案によるものとする。

2 エリア別役割と周遊シナリオの検討

点在する観光資源を有機的に結びつける視点から、広域的な周遊のあり方について検討するものとする。また、観光客の属性や滞在ニーズを踏まえ、滞在時間の延長及び観光消費額の向上につながる方策について整理するものとする。

第6章 観光の課題整理

内部環境（強み・弱み）と外部環境（機会・脅威）を整理し、対馬観光が解決すべき重点課題を明確化する。分析にあたっては、現行計画の評価を踏まえ、新たな視点も含め、多角的に分析を行うものとする。

第7章 観光振興の基本方針

様々な分析結果を踏まえ、本市の特性を活かした観光振興の基本的な方向性を整理するものとする。検討にあたっては、持続可能な観光の推進、地域との共生、観光消費額の向上等の観点を踏まえるものとする。また、地域経済への波及効果や担い手の確保など、地域全体への影響についても考慮するものとする。

第8章 観光振興施策の整理

本市の観光振興施策については、第3次対馬市総合計画における考え方を踏まえ、「攻め」と「守り」の視点により体系的に整理するものとする。

「攻め」の視点においては、観光を通じた地域経済の活性化及び観光消費額の向上に資する取組について検討するものとする。「守り」の視点においては、地域の暮らしや自然環境との調和、持続可能な観光地づくりに資する取組について検討するものとする。また、施策については、観光振興に資する取組

を幅広い観点から総合的に整理するものとする。なお、施策の具体的内容及び実施手法については、受託者の専門的知見及び創意工夫に基づき提案するものとする。

第9章 計画の推進と管理

1 推進体制

本計画の推進にあたっては、行政、観光関係団体、事業者、市民等が連携した体制の構築を図るものとする。

2 進行管理

計画の進捗を適切に把握するため、成果指標(KGI・KPI)を設定し、評価及び検証を行うものとする。

3 見直し

社会情勢や観光動向の変化に対応するため、本計画については適宜見直しを行うものとする。